

EPAハノイ便り

10月号

平成 29年 10月 31日

ARCベトナム校発行

ハノイも秋を迎えています。朝晩は少し涼しくなりました。今月号は日本社会文化適応研修での俳句創作とこの一年間のまとめの感想をお送りします。

俳句

日本で生活できるように、日本文化について知っていることは大切なことです。EPAの候補者たちは社会文化適応研修の授業で「俳句」の授業を受けたのをきっかけにして、俳句が好きになっています。239名の候補者が自分で作った俳句で、新聞部が選んだ3句の優秀作品を紹介します。

息白く 屋外寒い 家族思う

グエン・ゴック・トウイー

「この俳句の字を見ると、意味がちよっとわかるでしょう。「冬はとても寒くて、息も白くなります。子供の時、冬が来ると、母は温かい料理を作ってくれました。父は冬着や手袋を買ってくれました。だからこそ、子供の頃、私は家族のそばで暖かい冬を過ごしました。今は一人で暮らしています。とてもさびしいです。冬が来て寒くなって、家族を思い出しています。」という内容です。もうすぐ冬が来ます。あなたの気持ちはどうですか。候補者達は家族から離れて一人で暮らして、勉強しています。冬が来て、両親は世話をすることができません。何でも自分でしなければなりません。でも、それでこそ成長できるようになるでしょう。」

雨の後 太陽輝く 桜咲く

ラン・ティ・ヒエン

「苦難の後、いい事が来るはずだ」という作者の説明です。私は読者として賛成します。この俳句はいい意味があります。

私がこの俳句を読む時、同じ意味を持つベトナムのことわざを思い出します。「雨が降った後、空は再び明るい」ということわざです。たとえ苦難でも、すべての困難を克服するために、ただ、自信や一生懸命ささえ持っていれば大丈夫だと思います。このことは我々が期待しているものです。桜を見ている時の幸福感のようです。今JLPTの試験日が近づいている候補者にとって、大変な時ですが、落胆してはいけません。それぞれの目標はきつと達成できるはずです。きつと全員がN3に合格し、日本へ行くことができます。

せみ鳴いて 卒業の時 思い出す

ドー・ハイ・タイン

「せみが鳴くたびに卒業式を思い出す。若い時を思い出す」という内容です。もうすぐEPAを卒業します。しかし、その時は12月ですが、せみが鳴く時は5月です。初めてこの俳句を読んだ時、昔のことを思い出しました。学校を出た後、どんな人でも自分で自分の道を選ばなければなりません。人々にとってそのことはとても大切だと思います。そして、先生がよいことを教えてくださったたり、友達と楽しい時間を過ごせたりすることができません。だれでもうまくできたことはありません。あまりできなかったこともあり、後悔しないようにもっと頑張ったほうがいいと思います。

候補者は日本語にまだ慣れていないので、日本語で

俳句を作るのはとても難しいです。でも、先生が詳しく教えてくれたらよくわかって、できないという最初の思いがなくなりました。皆は積極的に俳句を作りました。一番困ったことは17の音節から構成されて、非常に短い俳句に全部の考えを短くて簡単な形でつ



廊下に張り出された候補者の俳句

づることです。最初はまちがいがたくさんありました。最後には、皆、自分の俳句が作れるようになりました。

私たちは俳句がとても短くて、意味がわかりにくいと思います。しかし、よく調べたり、先生が詳しく教えてくれたりしたら、俳句に反映されているものは、バラバラで連結性がないと思うかもしれませんが、実

際にはつながっていますし、それに俳句は簡単な形で表現されていますが、それには四季の特徴的な自然の絵が含まれていると実感できるようにになりました。俳句は本当に面白いと思います。

(ホー・キム・オアイン／ダム・ティ・ゴック／フアム・ティ・トゥー／グエン・ティ・キエウ・オアイン)

最後に先生方が選んだ優秀作品を紹介します。

ねこみたい こたつまるまる しあわせだ

ホアン・ティ・フエ

先生方の感想

・冬の寒さの中、こたつでほっこりする暖かな様子が伝わり、こちらでも幸せな気持ちになりました。

・「冬」という言葉は使っていませんが、その寒さとこたつの暖かさがわかります。幸せな気持ちもよく伝わります。「まるまる」の言葉の使い方がうまいと思います。

・私はしばらくこたつに入っていないです。こたつでの団らんや、うたたねは私の冬の楽しみです。なつかしい気持ちになりました。

この一年を振り返って

去年の12月に私達は介護福祉士と看護士候補者としてEPAに参加しました。いつのまにかもうすぐ一年の研修が終わります。一年前に研修に参加した時と比べて、候補者達はいろいろなことが変わりました。

まずは生活習慣が変わったことです。EPAに参加する前に、毎朝早く起きて、体操をする人があまりいませんでしたが、今は体操する習慣を身につけるようになりました。そして食事の習慣です。食べる時間が決まっていますから、毎日候補者達は食事をちや

んとするようになっていきます。次は計画を立てる習慣です。候補者達はどうなことで始める前に、自分で計画を立てることや、やり終わったらすぐ掃除して整理することという新しい習慣ができました。それはいい習慣になります。この習慣は候補者達にとって、日本で働くのにとっても役に立ちます。

二番目は知識が広がったことです。知識は限界がないものです。生まれた時は、知識はまだありません。候補者達もそうです。EPAに参加する前に日本語について何もわかりません。EPAに参加した後、日本語を勉強し始めました。最初、候補者達は五十音を勉強しました。全部を暗記するために、毎日一生懸命勉強しましたが、なかなか覚えられません。とても悩んでいました。それは皆が涙が流れるほどの苦勞でした。ひらがなだけでなく、カタカナも漢字も暗記するのにとても時間がかかりました。しかし、時間が経つにつれて、いろいろなことが覚えられるようになりました。そして、日本語を勉強すればするほど楽しいと感じました。日本で働くためにN3に合格しなければなりません。それは候補者にとって、大切です。日本語ばかり勉強するのではなく、日本の社会文化も勉強しています。今まで10か月以上が経っています。

候補者達は日本人と日本語が話せるようになって、日本のマナーやルールやお祭りなどわかるようになりました。それは候補者達にとって、ありがたいと感じています。EPAのおかげでいろいろな知識を得ました。

三番目は目標を定めたことです。EPAに参加する前に、はどんなプログラムかわからない候補者がいました。そして、このプログラムの目的が何かわからない候補者も少なくないです。しかし、EPA研修所で10か月以上を過ごして、自分の義務がわか

るようになりました。これはN3に合格するのではなく、ベトナムの代表と言う役割を果たさなければなりません。EPAが終わって、来年5月ごろに条件が足りた人が日本で働くことになっています。今、候補者達はN3・N2を目指して毎日一生懸命勉強しています。今後の目標について、意見がたくさん出てきます。日本の介護技術が進歩していて、日本でいい介護福祉士になりたいので、国家試験という目標を定める人がたくさんいます。また、いつかはベトナムに帰って介護の仕事を続けたい人もいます。ベトナムもいつかは日本のように高齢化社会になって、日本で学んだ技術を使って、ベトナムの高齢者を手伝えるかもしれないからという理由です。そのほか、日本語を使った仕事につきたいと思っている人もいるようです。ですから、技術だけでなく、日本語も身につけなければなりません。何にしろ、目標に到達できるように努力がとても必要です。皆、一緒に頑張りましょう。

EPAに参加するのは候補者にとって、貴重なチャンスです。先生方が日本語を熱心に教えてくださいたいし、新しい友達もたくさんできるし、楽しい集団生活を体験しています。そして、EPAに参加したおかげで、自分の目標を正しく目指しました。心の底から深く感謝いたします。

(フアム・ティ・トゥー・ホアイ／ポー・ティ・ホアン・アイ／ドー・ティ・ハン／ドアン・チュ／レー・クアン・ファン)

今月号の記事はお楽しみいただけただけでしょうか。候補者にとって、いよいよ本番の日本語能力試験が約1か月後に迫っています。まずは健康に気をつけて集中して学習に取り組んでもらいたいと思っています。